

令和5年度 延岡青朋高等学校 総合評価(定時制課程)

『評価』は4段階の数値で行う。4:十分達成されている 3:ほぼ達成された 2:やや不足な点がある 1:ほとんど達成されていない

重点目 標	具体的な方策(P)	結果と課題(D)	自己評価(C)		改善策または 充実項目(A)	学校関係者評価		
			項 目 別	総合		評価		コメント
						項 目 別	総合	
1	「確かな学力」の育成	○生徒の実態を踏まえた教育課程および評価方法の検討の継続。 ○国語、数学、英語における学校設定科目の開講を継続させ、学び直しや進学希望生徒へのニーズに対応する。 ○教科代表者との連携により、開講している科目群の検討を行う。	3	3.3	○来年度で全て新課程へ移行する。教務部及び教科代表者との連携により、微調整を行い生徒及び学校のニーズに対応したものになってきている。 ○新科目対応の評価規準及び評価基準の見直しや新たな科目のシラバス等を作成した。	3.4	3.5	・基礎学力の定着に焦点を当てた取り組みについて、知りたい。 ・基礎学力の向上の取り組みと共に、進学への対応にも期待します。
		○授業力および単位修得率の向上。 ○月別指導計画を作成し、授業の振り返りを行うことで、個々の授業力向上を図る。	3		○コロナ感染症も5類に移行し、通常どおりの日々の授業を実施できている。	3.4		・通常授業を取り戻され、教員・生徒とも授業感覚がコロナ以前のように戻ることが期待されます。
		○アクティブラーニングの視点を取り入れた研究授業及び授業研修や、ICTを活用した研究授業及び授業研修を実施することで単位修得率向上のための一助とする。	4		○来年度で一人一台端末が3学年揃う。また、全教室へのプロジェクト設置などICT化が進み、授業環境が充実した。グーグルクラスルーム等のICTを活用した授業研修会を数多く実施できた。	3.8		・教育現場では、Google Classroom が標準的になってきているのでしょうか。我々も、導入を考えていきたいと思います。 ・時流に乗った教育の推進がますます必要になって来ています。そうした中、一人一台端末が完備されるのは素晴らしいことです。今後は、それを活用した教育内容の充実を更に期待したい。 ・ICT教育の充実と活用に努めてください。
		○ライフプラン等、生き方をふまえた、生徒の発達段階に応じた、グループ毎の取組の充実。 ○キャリアパスポートの有効的な活用。	3		○本校の全体計画に基づき、各グループの独自性を生かした、キャリア教育の推進に努めて行く。 ○紙ベースと個人端末の有効活用によるキャリアパスポートの効果的な活用について改善を進める。	3.2		・より効果的なコンテンツになすよう、合理化を期待したいと思います。
2	「豊かな心」の育成	○教育相談と教育相談が一体となったチーム支援（問題行動の未然防止への常時指導や教育相談との情報の共有化や巡回指導の強化） ○礼法やマナー指導の充実（集会や式典での指導の充実） ○学校行事・人権教育の充実（生徒会や生徒専門委員会との連携強化・いじめや暴力根絶に向けた指導の充実） ○生徒会やボランティア活動の充実（生徒会や生徒専門委員会との連携強化）	3	3.7	○教育相談、全職員との情報共有、巡回指導は今後も継続が必要である。 ○文化祭を始め、学校行事等様々な場面で生徒会活動が見られるようになってきた。生徒たちの自主的・継続的な活動となってきた。	3.8	3.9	・礼法やマナー指導について、特に大きな問題がなかった点は、より評価できると思います。 ・生活面の指導も引き続きお願いします。 ・生徒達の将来を見据えた指導教育を継続希望します。生徒の自主的な活動が今後さらに増えることを期待します。

		○学校生活アンケートや日常の相談を通して、いじめや人間関係のトラブル、深刻な悩み等をすくいあげ、対応策を検討する。	○前期Ⅰ回、後期Ⅰ回の学校生活アンケートや担任による面談を通して早めに生徒の状況を知ることができた。いじめはゼロであった。	4		○障害や特性、困難さに応じた指導・支援について理解を深めることが大切である。	4.0		・多様性を認め合い自身の個性を知ることなど、良い指導ができているのではないのでしょうか。 ・これから相談しやすい環境づくりに努めて下さい。
		○読書週間を通して本に興味を持ってもらい、POPコンテストの充実を図る。	○生徒たちは読みたい本を準備し、集中して読んでいた。POP作成の取り組みも良く、ほとんどの生徒が作品を提出した。目を見張る作品が多かった。	4		○次年度も、ほぼ全員の生徒に作品を提出してもらいたい。 ○読み聞かせを実施し、さらに、本に親しみを持つ生徒の育成につなげたい。	4.0		・「学校だより」の本を紹介するコーナーも興味深く読ませていただいております。 ・さまざまな人から、本を紹介できる環境づくりが一層推進すると良いと思います。 ・本を読むことは、短い時間でも集中して物事、内容に向き合う機会です。本に親しみを持って向き合い心を豊かな生徒を継続して育ててください。
3	「健やかな体」の育成	○基本的な生活習慣の確立（生徒専門委員会との連携強化） ○健康教育の充実（各種研修会の充実） ○保健安全教育の推進（各種研修会の充実） ○部活動の活性化（心・技・体の強化・部活動規定の見直し）	○生徒専門委員会で「歩きスマホ」の改善「校門での挨拶運動」等、自発的に問題点に取り組んだ。 ○外部講師を招いて各種研修会等実施した。 ○県定通体育大会において、男子卓球、女子バドミントンが全国大会出場した。	3		○部活動に参加する生徒の数、年間を通して部活動を実施する生徒数が増えている。必要に応じて部活動規定の見直しをしていきたい。	3.6		・今年度は、宮崎県で梅毒が急増しました。性教育（性感染症の教育）も必要に応じて導入されると良いのではないのでしょうか。 ・バドミントンの全国大会出場は大きく評価できると思います。 ・今後も文武両道で生徒の皆さんが活躍されることを願っています。
		○生徒が危機管理意識や、施設等の安全管理、保健安全に関心を持ち、自ら考える力を育成するため、環境教育や防災教育、心肺蘇生法実技講習、講演会等を実施する。	○コロナ感染症による制限も緩和され、防災訓練や各種講演会を全て予定通り実施することができた。今後の課題としては、防災訓練が訓練のための訓練にならない工夫が必要である。	4	3.5	○課題解決の改善策として、防災訓練に対して生徒が主体的に携わっている体制づくりが必要である。具体的には避難の注意点を動画作成する。また、避難の誘導に生徒を参加させてみる。これらの案は早速来年度に向けて取り組んでいきたい。	3.6	3.6	・能登地方で大きな地震があったばかりですので、防災意識がより高まっていることと察します。 ・専門家との連帯、大事な事です。更なる強化を。 ・各種防災訓練は、他人事の様に取り組み参加している場合があり（他校の場合ですか）、訓練は人（仲間）の命、自分の命を守るための訓練ですので、改善等に記載があるように、避難誘導等に生徒を参加させることは良い経験になると思う。
4	学校創生『チーム青朋』	○各関係者・関係機関等との適切な連携を図る。	○生徒支援について、スクールカウンセラー、ハートサポーター、市の相談支援センターなどと連携を図り、情報を共有しながら方策を練ることができた。	4		○様々な事情や特性のある生徒が増えてきているので、今後も専門家と連携を図りながら生徒に対応していくことが重要である。	3.6		・生徒が孤独感を感じないような、サポート体制が重要だと感じました。
		○OPTA活動によって保護者と学校との連携・協働を図る。	○総会、役員会、行事等様々な場面で保護者の協力を得ることが出来た。	3	3.3	○後期入学された生徒の保護者にも役員を引き受けてもらえるよう案内をしたい。	3.4	3.4	・特に問題とを感じる点はありません。
		○行事での通信制との連携を図り、全校的な協力体制を確立する。	○卒業式会場作成及び片付けで、通信制とお互いに協力し合えた。	3		○後期卒業式が別々の開催となったが、式後の片付けは合同で行うように計画している。	3.2		・特に問題とを感じる点はありません。 ・定時制・通信制のますますの連携を期待したい。 (例)合同文化祭・合同体育大会など